

異常細胞を読み解こう！

末梢血液形態所見から細胞表面マーカー（FCM）・ 遺伝子検査へのアプローチ

◎森 沙耶香¹⁾

長崎大学病院 検査部¹⁾

血算における異常値や形態上の異常細胞の出現を契機とする血液疾患診療においては、形態学的所見から鑑別を行い、確定診断に必要な細胞表面マーカー（FCM）検査、遺伝子検査に結びつけていくことが重要である。FCM 検査では適切な「Gate 領域（解析領域）」を設定するために形態学的観察はとても大事である。また、遺伝子検査は「スクリーニング検査」として用いられることは少なく、形態学的特徴からある程度遺伝子検査のターゲットを絞ることが適切な検査および迅速な診断へと結びつく。末梢血液像および骨髓像で異常細胞の出現を認めたとき、「本当に異常細胞なのか？」「反応性なのか腫瘍性なのか？」など、腫瘍性変化をとらえることが難しい場面に遭遇することも多い。

提示症例から、異常細胞をとらえ、その形態学的特徴から病型を絞りこみ、FCM 検査結果を読み解き、染色体・遺伝子検査結果を踏まえて診断を進めていくプロセスを解説したい。参加型カンファレンスですので、一緒に『形態学的特徴の洞察力』と、敬遠されがちな『FCM 検査・遺伝子検査』の結果を読むスキルを養いましょう。

【症例1】 60歳代、女性

【主訴】 食思不振、全身倦怠感

【入院時検査所見】

《血液一般》WBC $21.5 \times 10^9/L$ 、RBC $4.28 \times 10^{12} /L$ 、Hb 12.4g/dL、Hct 37.5%、PLT $58.0 \times 10^9/L$ 、Ret 3.5%、Pro-Myelo 2.0%、Myelo 2.0%、Meta 2.0%、Stab 4.0%、Seg 29.0%、Lymph 22.0%、Mono 16.0%、Eo 0.0%、Baso 0.0%、EBL 10/100、Others 23.0%

《生化学》TP 6.1g/dL、ALB 3.4g/dL、LD 988U/L、AST 202U/L、ALT 35U/L、ALP 35U/L、T-Bil 3.6mg/dL、D-Bil 2.7mg/dL、BUN 16mg/dL、CRE 0.93mg/dL、CRP 3.30mg/dL、FERR 1566ng/mL、IL-2R 18278U/m